

「ユニセフ切手きってボランティア」に参加しました！

10月17日(土) 埼玉県ユニセフ協会で行われたボランティアに2年生8名で参加しました。使用済み切手の周囲を切り取る作業でしたが、それで得たお金はユニセフの活動、つまり助けを必要としている世界中の子どもたちのために役立てられます。例えば、栄養治療食「プランピーナッツ」は1袋30円、年に2回1粒ずつ飲めば失明を防いだり、抵抗力をつけるビタミンA剤は1粒1円だそうです。

10時から始まった集まりでは、まず自己紹介をしました。陽春分校の他に、一般の方や高校生が参加していました。続いて、ユニセフの活動紹介のDVDを見ました。戦後戦災孤児を救う国連の緊急援助機関として始まったユニセフからは、戦後日本も学校給食や衣類、医療品などの支援を受け、以来ずっと世界中の厳しい状況にある子供たちのために活動してきました。東日本大震災の時も多く支援物資が子どもたちに送られました。

約2時間、楽しくおしゃべりしながらも、皆さん、とてもいけないに切手の周囲を切り取る作業をしました。また、今回参加できなかったものの、家でとっておいた切手を持ってきてくださった生徒さんも何人もいました。

このボランティアは、11月、12月も第3土曜日に行われます。参加してみませんか？

<参加者の感想>

・私がやったことはごくわずかなことなのだと思いますが、地球上の見知らぬ誰かを救うための一端を担えたと思うだけでもうれしいです。このボランティアをきっかけに自分の視野が広がり、日本だけでなく海外で起きている様々なできごとにも目を向けられるようになったらよいと思いました。

・以前からユニセフの名前は知っていましたが、切手でどうやって世界の子どもたちを支えているのか気になっていたので、このボランティアで知ることができました。小さい切手でも子どもたちの支えになるんだと思い、感動しました。

・このボランティアで、世界経済の格差や、それで苦しむ人々、特に幼い命が失われる現況とその生活から脱出できない子どもたちの現実を再認識しました。

・切り終わった切手が自分の箱にたまっていくのがうれしかったです。最初に視聴した「地球のともだち」に出てきた子ども達のためならと夢中に手を動かすことができました。

・今まで見たこともなかったいろいろな切手があり、勉強にもなり、とっても楽しかったです。DVDを見て、世界中の子供たちがみな平等じゃないことが悲しいと思いました。切手を切り取る時も子どもたちの顔が浮かんできました。ほんの少しでも子どもたちの力になりたいと思いながら、今自分にできることを続けていきたいと思いました。

・DVDを見て、日本は水も衛生的だし、食べ物もおいしいので、本当に幸せだと思いました。そんな幸せな国に住んでいるので、少しでも役に立てばいいと思いました。1人で切るのは時間がかかります。多くの人に手伝ってもらって、使用済み切手を出してくれた人にも感謝して、1枚でもむだのないように切って、ユニセフの役に立てばいいと思いました。

